

地域に対する愛情と誇りを育てる教材の開発 ～ 長万寺をつくる（中学年社会科）の実践 ～

岡山県教育委員会津山教育事務所教職員課 高岡昌司

1 はじめに

本実践の舞台は岡山県中央町（現美咲町）という、地名の通り岡山県のほぼ中央部に位置する農業中心ののどかな町である。最近でこそ棚田や駅舎、たまごかけごはんが話題となることがあるものの、これといった特徴的な産業はなく、少子高齢化の問題が進んでいる現状がある。このような中で、子どもたちに自分の生まれ育った地域をしっかりと見つめ、地域の歩みや人の生き様にふれる学習を設定したいと考えていた。

そんな折、町の小学校社会科副読本に「加美小学区には大小合わせて100ぐらいのため池がある」という文章が載っていた。ため池は日頃から目にはしているが、子どもたちにとって、生活とのつながりやその背景についてほとんど知らないものである。私自身も同様だが、数の多さに興味がわき、中でも、一番大きなため池である長万寺池を取り上げ、教材開発を試みることにした。本論では、教材研究を進めるうちに人とつながり、実践化するに至った手づくりの教材を紹介したい。

2 実践の目的

教材開発・実践で著名な有田和正氏は「一見、何もないような地域でも必ず、驚くような事象が存在する。」と述べている。地域への愛情や誇りを育てるためには、まず、地域の事実を掘り起こしていくことから始まる。

地域が発展してきた様子や、その中で生活している人の生き様や思いに触れることが、自分の生まれ育った地域を見つめ直すことにつながり、さらに、社会形成者としての自分という存在を意識することになると考えた。

中学年の多感な時期に、体験活動や人との出会いを通して、地域について思考する教材の重要性を感じ、実践した。

3 教材化にいたるまで

まず、町役場を尋ねたが当時の資料（昭和初期）はすでに廃棄されていた。そこで、長万寺池地区の古老を紹介して頂いた。古老（Kさん 81 歳）から当時の様子や、記念碑のこと、池づくりの中心となった人の話を聞いた。昭和初期ということで、実際に池づくりに関わった人たちはすでに亡くなっていた。次に、県立図書館など県内数カ所の図書館で昭和初期の郷土資料にあたった。そこから、長万寺池の開発が行われた頃、隣町で大規模な耕地整理が行われていたことがわかった。その詳細をまとめた著者（郷土史家）に会うことができた。郷土史家である NY さん（72 歳）からは、現地で当時の耕地整理や池づくりの様子を詳しく聞いた。さらに、周りの先生方や保護者にも呼びかけていたこともあり、実際に池づくりを体験された NK さん（84 歳）を紹介してもらうことができた。

こうして、ほとんど資料がなかった段階か

ら耕地整理や池に関する文献、郷土史家、地元の古老、池づくりの経験者がそろい教材化へと踏み切ることができた。

4 実践にむけての工夫

教材研究の中で多くの人との出会いがあったことを是非、子どもたちとの学習に生かしたいと考えた。長万寺池に関わる人々の思いや願い、知恵を子どもたちに実感させるために、特に、次の4点を自分なりに工夫した。

① 人との交流を各学習過程に位置づける

教材との出会いや、追究の深まり、発信する相手意識など子どもたちの学びに即してそれぞれの人物との交流を考えた。古老 K さんや郷土史家 NY さん、経験者の NK の3名を課題形成、追究活動、まとめ・発信の各学習過程に位置づけることで、机上の学習だけではなく、人との交流から思いや生き方を学ぶ学習になると考えたわけである。

② 池づくりの擬似体験を取り入れる

写真や絵から当時の様子はイメージできるものの、実際に土を掘ったり運んだり、突き固めたりなどの池づくりの擬似体験を取り入れた。当時の人々の工夫や苦労を知識としてだけでなく、全身で実感できるような学習にした。昭和初期という現在とは時代背景がまるっきり違う中で、ため池の存在と当時の生活の様子や人々の願いを考える基盤とした。

③ 友達との学びあいの場を重視

小グループを多用し、聞いたことや体験したことをお互いに共有する機会を設定した。仲間との共同作業の中で、共感したり違いを感じたりすることが自分の学びを客観的に振り返ることにもつながるであろう。その際、ただ気づいたことを発表し合うだけでなく

「きらめきカード」(大きめの付箋)に友達の考えの良いところや、疑問点を書いて交換することで学びを深める場とした。

④ 教師の手による自作資料の作成

教材研究段階での資料をそのまま子どもたちに提示しても理解は困難である。そこで、聞き取りからわかった事実を文書に示したり、文語を現代語にかえたり、図や写真を多用してイメージしやすいようにしたりとなるべく、子どもの力で追究活動が進められるように自作資料の作成を行った。すべてを提示するのではなく、必要に応じて示すようにした。

5 実践の方法

(1) 対象(実践当時 久米郡中央町)

岡山県久米郡美咲町立加美小学校 4 年生
男子 15 名、女子 23 名、計 38 名

(2) 単元名

「長万寺池をつくる」

(3) 単元目標

長万寺池の開発について、古老への聞き取りや池づくり体験、資料などをもとに意欲的に調べることを通して、当時の人々が生活の向上を願い、多くの工夫や苦労をしながら長万寺池を開発、発展させたことについて考えることができる。

(5) 学習過程

本単元の学習過程は、次頁の資料 1 に示す通りである。

6 授業の実際の展開

(1) 第1次 問題をつかむ場

～ 導 入 ～

導入は、加美小学区のため池の地図ぬり活動を行った。その中で、子どもたちは大小様々な形のため池が 100 ぐらいあることに気づき、

場	時	子どもの活動	とらえる内容	意識の方向
問題をつかむ場	1	・加美小学区の溜め池の色塗りをし、たくさんある理由や長万寺池の様子について考える。	○学区には 100 を越えるため池がある。大きな川がない。 ○山の斜面に多くの田がある。	・ため池が多いな。水に困っていたんだな。 ・長万寺池は特に大きな。 ○長万寺池を見てみたい。
	2	・長万寺池の見学を行い、大きさや場所、できた頃の様子について古老に聞き取りをする。	○長万寺池は 60ha の田をうろおしている大きな池である ○大きさや形、周りの様子、堤防の長さや高さ、用水路、田の様子。 ○水不足が当時の大きな悩み。	・人が作った池なんだな。たくさん田んぼに水が送られているな。 ・山の斜面にも田んぼがあるんだな。 ○いつごろ作ったのかな。
	3	・見学での聞き取りをもとに長万寺池の歴史年表づくりをして、学習問題を作る。 長万寺池はどのようにしてつくられたのだろうか。	○池が完成後は 105ha 増の収穫高 4200 以上に激増。 ○大正時代に今の大きさに増築 ○池から用水路を引きめぐらせ山の上の方まで、米作りができるようになった。	・大正時代に今の大きさになったんだな。 ○機械がないのに、どんな人がどんな道具で作ったのかな。
問題を解決する場	4	・学習問題について予想し、調べる計画を立てる。	○調べ方や調べる視点の具体化	○道具を調べてみたい。 ○どれくらい日にちがかかったのだろう。
	5	・資料をもとに、興味のあるところをくわしく調べる。	○越尾耕地整理組合を作った進めた。 ○政府新四郎、桑元彦太郎が中心になって努力している。	・中心になってがんばった人がいたんだな。 ・女の人や村の人が協力してつくったけど、大変だっただろうな。
	6	＜中心になった人々＞ ＜当時の技術や道具＞ ＜池をひろげる方法＞	○村人が総出でもっこやトロッコなどを使って人力で作った。千本づきなど女の人協力している。 ○完成まで 20 年近くかかった。 ○当時、岡山県下で、一番大きな耕地整理だった。 ○山の上の谷に作っていて、大正時代に堤を高くして池を大きくした。	○調べた事を伝えたいな。 ・自分が調べていないことをみんなよく調べているな。 ○本当につくれるのかな。 ○自分たちもやってみようかな。 ・昔の人はすごい苦労をしたんだな。 ・自分たちの生活をよくするために努力したんだな。 ・中島さんや桑元さんは昔の人の気持ちを大切にしているな。
	7	・調べたことを発表する。	○もっこ運びや千本づきなど想像以上に人力ですることの大変さを実感する。 ○当時の人々のくわしい様子	○町の人にも知らせたいな。
新たに働きかける場	8	・調べたことをもとに運動場で池づくり体験し、中島さんと西尾さんにお話を聞く。	○水の心配が少なくなったが、管理も大変だった。 ○人々の池や田にかけた思いや願いについてより深める。現在もその思いは引き継がれている。	
	9	・調べたことをもとに当時の人々の苦労や努力を考える。（本時）		
新たに働きかける場	11	・長万寺池のことについて、知らせる計画を立てる。	○紙芝居、ポスター、看板、パンフレットなど自分なりまとめかた方や発信先、方法を考える。	・みんな驚くだろうな ・町内にもこんなすごいことがあったんだな。 ・みんなに溜め池のことをもっと知って欲しいな。
	12 13	・それぞれの方法で取り組む。 自分たちのくらしを少しでも良くしようといろんな努力や協力をして長万寺池を作った。今も大切に池を守り、継いでいる。		○自分の家の近くの池も同じなのかな。

資料 1 「長万寺池をつくる」の単元構想（全 13 時間）

大変驚いていた。そこで、『なぜ、こんなにため池があるのだろうか?』と発問すると、「雨がよくふったから」「山や森が多いから水がた

まった」「昔、地震で穴がたくさんできた」「水を使う人が多い」など思い付きの発言が続いた。さらに、『池の水は何に使うの?』の発問

には、「魚を飼う」「川に流れてトイレに使う」
 「使う水ではない」という意見が多かった。
 田舎の子ではあるが、半数の子どもは田んぼ
 や米づくりの経験がない。池から田んぼに水
 が流れていることを実際に見たことのある子
 から「田んぼの水に使っていた」という発言
 がヒントになって、「学区には大きな川がない
 ので水が足りない」、「山の上まで田んぼがあ
 るからため池がある」と予想がでた。そこで、
 町内で一番大きくみんなが知っている長万寺
 池の見学に行くことにした。

～教材と古老Kさんとの出会い～

町のパスを利用して、長万寺池へ行った。
 事前に K さんには来て頂くようお願いして
 いた。子どもたちは喜んで、古老の話を真剣
 に聞いた。感想では次のようにまとめていた。

<子どものノートから>

- ・「長万寺池はおじいさんの先輩がつくったと言
 っていた。本当にあんなにでかい池をつくった
 のかよくわからない」
- ・「大正時代からつくりはじめたらしい。おじい
 さんは水の管理をずっとしていた」
- ・「池は米づくりにはなくてはならないものだ
 とわかった」

長万寺池地区の K さんとの出会いは、それ
 までの長万寺池の知識や見方を変えたよう
 である。また、見学でわかったことを交流し
 あたりまとめたりする中で、「あんなにでかい
 長万寺池をおじいさんの先輩たちがつくった
 ことが信じられない。一体、どうやってつく
 ったのだろう」ということに疑問が集中した。
 そこで、『K さんの先輩たちは長万寺池をど
 のようにして作ったのだろう』というクラスの
 学習問題を設定し、調べる計画をたてた。

<子どものノートから>

- ・馬や道具を使ったとしてもやっぱり大変そうだ。


私はそうとう大きな道具じゃないと作れないと思
 う。・今のお金でどのくらいかかったのか。どうや
 ってあんなに大きな池をつくったのか気になる。
 ・予想がたくさんでてきて何を調べるのかまよ
 った。・いろんな調べ方や予想がでて、みんなす
 ぎないなあと思った。ノートにいっぱいなるぐ
 らい調べるぞ。

それぞれの予想を交流したのち、調べる視
 点として、【中心になった人々】【使っていた
 道具】【池ができるまで】という大きく 3 つ
 の視点にまとまった。

(2) 第2次 問題を解決する場

2次では、調べる内容や視点を明確にした。
 まず、自作のプリントや副読本、教科書、

第7時



<子どもの感想から>

・私は作る方法について調べました。池、用水路、道がすべて人の手で作って
 いたとは思いませんでした。それに、せーんぶで作って20年。150ヘクタ
 ールも田んぼがふえたという事がわかった。・道具っていろいろな物がある
 だね。・千本づきは女の人がするんだな。池は何百人もかかって作ったんだな。
 ・いろいろなおねがいをししてやっとなんかできたんだ。・私はただの池かと思っ
 たらみんなのくろうやきょう力してできたんだと思った。・わかしは道具は今
 のとはくらべ物にならないくらいふんだんだった。・池づくりはなぜ、冬
 にするんだろう。・お金を集めるのもこんなに時間がかかるなら、できるま
 でそうとうかかっているな。・岩ばんまでほりさげるのは大変だっただろう。
 私は方法をいっぱい書いた。こんなに書いたのははじめてだ。わかしは、
 千本づきなどいろいろな方法を考えていて、ちがいがいい。

第7時

〇調べたことをもとに情報交換を行った。



資料3 一人調べと情報交換時のノート

資料集などから一人調べを行った。集中し

て調べ活動を進める子が多かったものの、一方で、なかなかかどらない子もいたこともあり、2 時間目の途中から小グループでの学習を取り入れた。情報交換後の子どもたちの感想は、以下の通りである

＜子どもたちの感想から＞

・一人でするよりやっぱりじょうほうこうかんをするほうがいんあことがよくわかった。むかしは人の手だけでつくったなんてやっぱりすごいな。・小さな子どもでも谷まで水をくみに行っていたんだ。・みんな、調べたことを次からつぎへよく発表していた。・じょうほうこうかんをして3つのことがわかった。1つは同じコースでも私がわからなかったことがわかった。そのほか、米の値段が1びょう15円と高かったこと。田んぼが105ヘクタールもふえたことはびっくりした。・みんなで調べたらたくさん出てきてすごいと思った。道具はほとんど木でできている。・今日はたくさん出た。ほくも言おうとしたけど言えなかった。・1回ぐらいしか発表できなかったけど、みんないろいろ調べていてすごいなあと思った。黒板いっぱいになった。

資料4 情報交換後の感想

子どもからは「人の手だけでつくったとあったけど、重かっただろうな」「昔の人はすごいけど、自分はやりたくないなあ」などのつぶやきがあった。そこで、休み時間や給食時間に『千本づきのビデオ』（隣町から借用したもの）や機械がない頃の水平の出し方などのビデオを見せた。調べたことを知識でのみとどめるのではなく、より具体的なイメージを持たせ興味づけを図ろうと考えた。子どもからは「どれくらいえらいんかな」「こんな機械ならすぐじゃ」「みんなで歌っていてなんか楽しそう」「おもしろそうだから、やってみたい」などの声がでた。ただし、場所がないので校長先生にお願いして許可が出たらやろうということになった。結局、無理を言って運動場を掘らせてもらい、池づくりの擬似体験をすることになった。

～ ゲストティチャーを招いて

池づくり擬似体験 ～

この体験では、池の土手づくりの様子について、鋼土を作り千本づきによって土が固ま

《池づくり疑似体験》

(体験内容)

○運動場を鍬やスコップで掘る。その土をもつこを使って運ぶ。(縦 70cm 横 2 m)

○運ばれた木づちなどで固める。赤土と消石灰を混ぜたもの（鋼土）を掘った穴に入れて千本づきを行う。

(準備物)

- ・木づち 6 本・もっこ 2 つ・赤土・消石灰
- ・スコップ・てみ・つるはし など

※道具については、知り合いの先輩や保護者や地域の人に呼びかけて、貸して頂いた。

っていく変化を実感させることを意図した。苦労だけに留まらず、昔の人の知恵にも触れさせたいと考え、池づくり体験のあるNKさん（84 歳）に指導して頂いた。（資料6）



資料6 地元の新聞に紹介される

土をほるのが本当に大変だった。かたくて腰が痛くなった。もっこで運ぶとき、いっぱい入れて運んだら、肩が痛くて今にも土がこぼれそうだった。でも、それよりも一番大変だったのは、土を運んだあと、手の力が全然出せなくてすぐに土を移すことができなかった。昔の人は本当に大変だったなあと感じた。

資料7 A子の体験後の感想

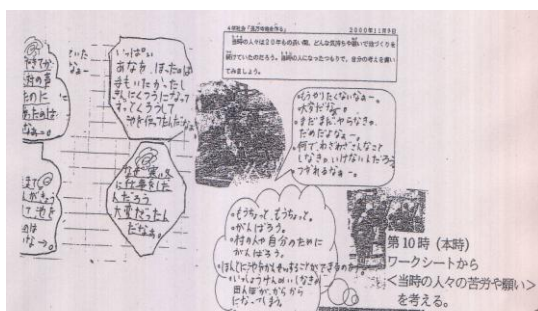
A子のノートには、体験したからこそ実感できたであろう肩の痛みや手の感触、土の様子がしっかりと表現されていた。(資料7)

～当時の人々の苦労や工夫を話し合う～

そして、池づくり擬似体験での感想を出し合う中で、当時の人々の苦労や工夫について話し合った。

6 本時案 (第10時)		
目 標	池づくり体験や聞き取り調査などをもとにして、長万寺池を作り、守ってきた人々の努力や工夫について、自分なりの考えや思いを発表し、今もその思いは引き継がれていることについて考えることができる。	
学 習 活 動	教 師 の 支 援	
1 本時のめあてを確認する。	○これまでの調べ学習でわかったことのポイントを提示したり、前時の池づくり体験を話題にしたりして、本時のめあてを確認できるようにする。 長万寺池づくりについて、当時の人々の苦労や願いを考えよう。	
2 これまで調べてきた中で思った事や気づいた事を発表する。 <中心になった人々> <当時の技術や道具> <作る方法>	○調べ学習の中で感じた苦労や工夫などをメモしているきらめきカードを確認する。 ・村人への理解、土地の買収、お金の工面 ・堤防の安全性 ・重労働、長期化 ・池づくりの感想 など	
3 当時の人々は、自分たちの力で20年に渡って池づくりを続けてきた思いや願いを考える。	○吹き出しを書いたプリントを用意して、当時の人々の気持ちや思いをまとめられるように支援する。 ○耕地整理前と耕地整理後の収穫量の違いや用水の広がり、耕地面積の分布図を提示する。	
4 桑元栄さんや桑元良夫さんの長万寺池に対する思いを聞く。(テープ、ビデオ)	○前もって、現在の地域の人々の思いをビデオやテープにとっておく。	
5 本時のまとめを書く。	○学習問題を再度確認し、わかったことや思ったことをまとめるように助言する。 昔の人々はくらしを少しでも良くしようといろんな努力や協力をして長万寺池をつくった。今でも池は大切な宝として守り継がれている。	

資料8 第10時の本時案



資料9 きらめきカードとワークシート

話し合いには、当時の人々の写真に吹き出しをつけたワークシート(資料9)を用意した。改めて、苦労や工夫を考えるというより

・ みんなでその人たちの気持ちになってみれば、「やだなあ」「苦労するなあ」ということがわかった。何回も書くけど、このころの人が20年も続けていたなんて驚きをかくせません。これからもし、学校の先生になったら、4年生の先生になって、池づくりのことを教えてあげたいです。しょう来、役に立つといいな。いい経験をしたな。

・ 昔の人たちは大変な思いをして池を造ったと思う。きっと長万寺地区の人たちはかんしゃしているだろう。長万寺池をどうやってつくったのかいっぱい不思議に思いながらやってきた。

・ 道具はどんなものを使っていたのか、中心になってやっていた人たちはどんな気持ちだったのかよくわかった。お金も1件1件まわって苦労して集めたと思う。

・ 長万寺池がないと今の生活はできなかった。あの池は本当にみんなの役に立っていると思った。池づくりの中心になった人は何年もかけて、村の人をせつとくしたなんて、みんなのしょう来のことを考えていたんだな。

・ いっぱい苦労しながら長万寺池を作ったのはやっぱりすごい。いやだなあと思った人はたくさんいたと思う。そんな中でも一生けんめい、池づくりを続けた昔の人たちは、素晴らしい人たちだと思う。

資料10 情報交換後の感想

も、これまで自分が書き綴ったノートや、友だちとの交流時に用いた『きらめきカード』から自分の学びを振り返るよう助言した。

そうすることで、学習の経過と共に自分が思考してきた学びの道筋を改めて振り返ることにつながると考えた。

これまでの調べ学習や体験での授業後の感想（資料10）にはやはり、体験が生きた実感ある意見が多かった。

（3）第3次 新たに働きかける場 ～ 情報発信 ～

これまで学習してきたことをどのような方法でまとめるのか意見を出し合った。子どもたちからは、「こんなにすごいこと、みんなにも知らせたい」、「できれば町内の人みんなにも知って欲しい」、「長万寺地区の人だってきっと知らない人が多いと思うから、劇とか紙芝居とかで知らせたいな」、「長万寺池に立て看板をして、池ができたわけや大事にしてほしいということを知らせたい」など、「折角、すごい秘密がわかったのだからなるべくたくさんの人に知らせたい」という願いが大きかった。

ただし、まとめる時間が2時間しかとれないということから、【長万寺池の本づくり】【長万寺池の紙芝居づくり】に絞った。まとめ方は自分で選択し、小グループ毎に創作した。

はじめて、紙芝居をつくった。短い話になったけど、ここまで作れてうれしい。これから先も、この紙芝居を残してたくさんの人に読んでもらいたい。

資料11 A子の単元終了時の感想

単元を終えた、A子の感想には、まとめ終えた達成感とともに、長万寺池への熱い思いが伝わってきた。

実際、休み時間を使い、自主的に他学年の教室に出向いて、紙芝居を披露した。クラス全体でも、それぞれの作品を他の学年に紹介したり、町の有線放送で流してもらったりし

た。社会科学習としてはここで終えた。



資料12 完成した紙芝居を披露する

～ 総合学習へ発展 ～

子どもたちの「長万寺池のことを知らせたい」という願いは、社会科から総合的な学習の時間「長万寺池をつくる」へと発展していった。クラス全員による創作劇を演じたり、千本づき体験コーナーや道具紹介コーナーを設置したりなどの長万寺池フェスタ（2月末実施）として、大々的に開催した。このフェスタには、校内の子ども・教職員はもちろん、保護者や地域の人（特に、お世話になった古

老Kさん、郷土史家のNYさん、体験づくりでお世話になったNKさんをはじめ、特に長万寺池地区の人たち)を招待するにいった。

校内の先生方の理解や協力、保護者や地域の方々から子どもたちへの称賛の声をたくさん頂くことができた。

これら一連の学習を通して、改めて、子ども達は自分が学んできたことの意味づけや、達成感を感じることができたように思う。

7 まとめ ～ 成果と課題 ～

急激な少子化やインターネットの普及など高度情報社会と言われる現代において、地域社会の変容から地域学習が難しくなったと言われる。つまり、子どもたちにとって距離的に身近な地域が必ずしも心理的にも身近な地域だとは言えにくくなってきている。

しかしながら、中学年の子どものたちにとって、やはり、自分の足で事象や人間の生き様を直接目にするような学習は、地域学習において他にないと考える。本実践を振り返る中で、その重要性を再認識できたことがもっとも大きな成果だと感じる。

本実践から2年後の卒業を迎えた子どもから「長万寺池の学習が小学校で一番心に残っている」、地元地域の方(保護者)から「改めて、自分の住んでいる場所を考えるきっかけになった。子どもたちにとってとても価値ある学習だった」という感想をもらったことが大きな励みとなった。

本実践は、教材研究の中で出会った人との交流や、実際の池づくり疑似体験、小グループ活用やきらめきカードなどによる友達との学び合いを深める工夫などを行うことで、子どもたちのため池に対する思いが、どんどん

と身近なものになり、実感を伴った主体的な学習展開となった。その意識を発展させた結果として、総合学習での長万寺池フェスタにつながったと言える。

子どもたちは、地域の人々の生き方や、工夫、努力、知恵に触れた時、地域への愛情や誇りを一層、強めていくと実感した。

一方、課題として、本実践では、ため池への意識は高まったが、米づくりなど農業に対する見方や考え方を深めるところまでは至っていない。「長万寺池がなかったら、今の生活はなかった」という感想をもった子は多かったが、科学的な根拠などからも一層それを裏付ける資料提示などを行う必要があったように反省する。

初期社会科の問題解決学習で大切にされた、「子どもに身近で切実性のある問題」は恵まれた今の子どもには難しい面が多いが、私たち教師が地域素材を見直したり、改めて意味づけたりする中で、新たなヒントが見つかるような気がする。改めて過去の実践を検証することは、地域教材の開発についての新たな視点や子どもの学びという現在の考え方から指導方法を捉え直すヒントが得られた。

<参考文献・資料>

副読本「私たちの中央町」「私たちの久米町」、中島義雄編集「耕地整理組合の父・福田久治」、久米郡誌、久米郡誕生寺池耕地整理組合誌、岡山県耕地整理概要大正8年(岡山県内務部)、池普請ビデオ「だんじこ唄」(佐伯町だんじこ保存会)、写真記録「美作の百年史」、「わがまちの土と水」(津山市土地改良区連合協議会)、「地域教材づくりと効果的な指導の研究」(楽万真一先生実践)、社会科教育学ハンドブック(明治図書)